

< 貧困率 > 日本 15.7% 先進国で際立つ高水準

長妻昭厚生労働相は20日、国民の貧困層の割合を示す指標である「相対的貧困率」が、06年時点で15.7%だったと発表した。日本政府として貧困率を算出したのは初めて。経済協力開発機構（OECD）が報告した03年のデータで日本は加盟30カ国の中で、4番目に悪い27位の14.9%で、悪化している。日本の貧困が先進諸国で際立っていることが浮き彫りとなった。

相対的貧困率は、国民の年収分布の中央値と比較して、半分に満たない国民の割合。今回政府はOECDの算出方法を踏襲した。06年の17歳以下の「子供の相対的貧困率」は14.2%で、同様に03年のOECDデータの13.7%（30カ国中、19位）より悪化している。

03年のOECDデータで貧困率をもっとも悪いのは、メキシコ（18.4%）で、トルコ（17.5%）、米国（17.1%）と続く。最も低いのはデンマークとスウェーデンの5.3%。

長妻厚労相は「OECDの中でもワーストの範ちゅうに入っており、ナショナルミニマム（国が保障する最低限度の生活）と連動して考えたい。来年度から支給する子ども手当で貧困率がどう変化するかもシミュレーションしていく」と述べた。【佐藤浩】

ソース：エキサイトニュース <http://www.excite.co.jp/News/society/20091020/20091020E40.071.html>

【コメント欄】

名前:	<input type="text"/>
コメント:	<input type="text"/>

投稿